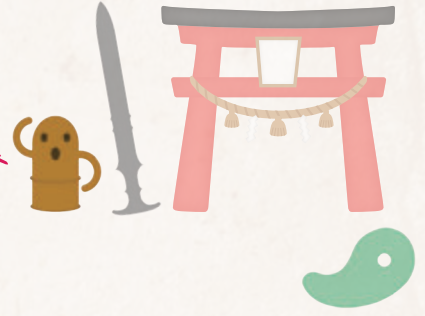


昔々の お市

第75回



遺跡から出土するお金

生涯学習課 文化財・市史編纂室 ☎ 0986-76-8873

埋

蔵金。昔の権力者が埋めて隠した財宝が、現代になって発見される・・・、ということ想像されると思います。

国内では権力者にまつわる隠し財宝の発見例はほぼありませんが、中世から近世の時代に港や交易で栄えた都市遺跡で「備蓄銭」、「埋納銭」、「一括大量出土銭」と呼ばれる、大量の銅銭がまれに出土することがあります。ツボ・カメ・曲物・桶・袋・木箱・その土地の土器などに、数千枚から数万枚にもおよぶ銅銭を備蓄し、貯蓄や隠匿といった理由で埋納されたと考えられています。現在、北海道から南九州まで約250件の出土例があり、財宝としての感動もさることながら、流通や経済活動を解明する良好な資料となります。

発掘調査を行っている、「埋蔵金は出てくるのか？」といった質問が寄せられますが、市内では残念ながら備蓄銭や金銀財宝の発見は未だありません。発掘調査で出土するお金の多くは、当時の人の遺失や宗教儀礼にともなったものなど、少額で少量のものがほとんどを占めています。平成24年度に調査を行った大隅町梶ヶ野の濱田遺跡では、47枚の銅銭がまとまった状態



さし銭出土状況（濱田遺跡）

出土しました。麻ひもでまとめられた「さし銭」と呼ばれるもので、銭の種類が判別できたものは32枚。内訳は中国の唐・宋・明で鑄造された上質な渡来銭で、使用された年代は16世紀の中世末期、遺跡から出土した遺物とも時期が重なることが判明しました。当時は96から97枚の銭をひもで通したものを100文とし、米1斗※ほどの価値であったとされています。濱田遺跡のさし銭は包含層からの出土であり、当時の人が輸送中に何らかの理由で落としてしまったものと考えられます。

※1斗は18リットル

曾於市史編さん情報局

まだまだ資料を探しています。各校区や自治会のことが記された昔の書類や記念誌・写真などは当時のことを知るうえで貴重な資料です。ぜひ、ご提供ください。

※提供頂いた資料はお返します



永楽通宝

(1411年に明で鑄造開始され江戸時代の初頭まで流通)

地中から出土する銭は希少性に関わらず、いずれも貴重な文化財となります。遺跡の時代や出土遺物の時期の大きなヒントになるとともに、社会背景も想像できる重要なものです。